

企画名： 「ヨコスカ=原子力空母と核燃料工場のまち」
実施日時： 2012年1月14日(土) 15:00-16:30
実施場所： パシフィコ横浜会議センター 4F 414+415
登壇者： 司会 新倉裕史(非核市民宣言運動ヨコスカ)
よろずピースバンド
菅沼みどり(放射能から子どもたちと未来を守る会)
瀧川君枝(放射能から子どもたちと未来を守る会)
呉東正彦(原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会)
相良順子(いらない!原子力空母)
鈴木茂樹(ヨコスカ平和船団)
市川平(ヨコスカ平和船団)
映像 沢園昌夫(原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会)
参加人数： 100名
文責： 樋口淳子(非核市民宣言運動ヨコスカ)

ステージに映像を流し、よろずピースバンドの歌を挟んで問題に取り組んでいる団体がアピールした。「放射能から子どもたちと未来を守る会」は、燃料棒がGNF-1から日本各地の原発へ輸送される際の監視を続けている。最近の監視では、トラックでの核燃料棒輸送中に放射能漏れが発生していることが確認された。またこの会では、子どもたちの甲状腺がん予防のためにヨウ素剤を容易に入手できるようなルートを構築した。

原子力空母反対の市民運動のひとつに放射能が子どもたちに与える影響を心配する母親たちを中心としたグループがあり、「横須賀の港に原子力空母はいらない!」という直接的なスローガンを掲げ、年に4回、季節に合わせたデモを展開している。

原子力空母ジョージワシントン(GW)は、日本の各地からの反対の声を押し切って2008年から横須賀を母港としている。GWで事故が起こり、原子炉から放射能漏れが発生すれば首都圏が影響を受ける。また米国は、その詳細を公表せずに毎年危険なメンテナンスを実施している。「原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会」は、市民のすぐそばに放射能の危険性があることを訴えながら反対運動を展開している。原子力空母母港についての市民の意見は反対だけではないため、市民の真意を問うための住民投票を行おうと、その条例を作る運動も行われている。また、原子力空母航行の不当に関する裁判を継続中。

横須賀には海上自衛隊と米海軍の二つの軍事基地があり、この地における基地反対運動の歴史は長い。「ヨコスカ平和船団」は毎月最終日曜日には、一般の人たちに軍事基地のことを知ってもらおうと、海上基地見学を実施している。

上記のそれぞれの活動説明の間にはよろずピースバンドによる音楽が演奏された。よろずピースバンドは横須賀で生まれた音楽バンドで、毎月の最終日曜日に横須賀で行われている、世界から軍事基地をなくそうという、40年近く続いている平和のためのデモに欠かせない存在。

90分間でより多くの参加者が無理なく活動を知ってもらえるよう、二部構成による紹介。参加者は中高年齢層で、7:3で男性参加者が多かった。横須賀が抱える問題をより多くの人々に知ってもらうための切っ掛けとなった。

最高裁に提出する、「公正な裁判を求める署名」を呼び掛けたところ、たくさんいただくことが出来た。また、GNF-Jについては、まだまだ知らない方も多く、運動の方向性が見えた事は、参加した成果である。

